

# 検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2010年11月5日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合) [No.164]

## JR総連が自白した闇組織「JR労研」の実態を徹底検証！

前号では、「JR革マル派43名リスト裁判」で原告のJR総連側が2010年6月30日に提出した準備書面で、JR内革マル派が1999年1月に「JR労働運動研究会」(JR労研)を作ったと述べていることを紹介した。「JR労研」についてあらためて検証していきたい。

裁判で焦点になっている「JR革マル派43名リスト」には、「JR労研」をはじめとするJR内の革マル派組織の構造について詳しく記載があるので紹介したい。かつてJR内革マル派の組織「マングローブ」の一員であったと自ら述べる元JR東労組中央執行委員の本間雄治氏(現JR労組委員長)らの「JR東労組を良くする会」が作成した資料だけに、信憑性が非常に高いと考えられる。

中央労研

地方労研

支部労研

分会(職場)

革マル派

トジヤ・マングローブ

A会議  
Aメンバー

L会議  
Lメンバー

支部労研

分会(職場)

\* こうした構造(労研)が、各単組で作られている

\* これらの上部組織として、全国労研が存在する

労研 JR労働運動をまじめにやろうという者の集まり。全国組織で、単組毎に中央労研・地方労研・支部労研を有する。地方によっては支部労研の存在しないところもある。運転職場などでは職場(分会)単位でも存在する。労研メンバーは、Aメンバー・L読などによって、職場活動や組合役員としての活動などから総合的に判断され、ピックアップされ、入会の決意を促される。この組織から多くの役員が輩出されている。また、中央会費・地方会費・分会会費などが定期的に集められる。動労時代の政研の流れを汲む。...(中略)...革マル派のフラクショナル的位置づけ。したがって、革マル派の影響を色濃く受けている。資本主義社会の矛盾、労働者階級、階級的立場などをマルクス・レーニンなどの文献、松崎明の文献などから学ぶ。冊子に「労働者の実践」がある。

### JR労研はJR内革マル派の育成への養成源か！

本間氏は「週刊現代裁判」でJR労研の位置づけについて、「一気に職場の中で『解放』を読めだとかということは言えませんから、その段階で、『労研』という労働組合をまじめにやる集まりがあるから、そこで一緒にやらないかという段階を経て、その中からより優れているといえますか、より理解がある者を『L読』へというような活動をやってきたという実体験から...」と述べた(No.9参照)。非常に難解だが、本間氏の証言やリストの記載から考えると、上図の左側の三角形(中央労研~分会)はJR総連内の表の組織であり、労研とランクを重複させながら、革マル派に関係する右側の闇の組織が繋がっており、労研への参加を通じて革マル派の教育を進めているものと理解することができる。「リスト裁判」の進行によって、これまでの様々な疑惑の真相が見えてくるのは非常に興味深い。